

# 総務企画常任委員会研修報告

本委員会は、11月5日から6日に山形県米沢市及び宮城県角田市を訪問して視察研修を行いました。

米沢市は、伊達氏、上杉氏の城下町として栄えた人口約8万9千人の市です。

同市は、行財政改革大綱集中プランを平成17年に策定し、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(PFI法)に基づきPFI制度を導入し、老朽化した公営住宅の建替整備事業を実施しています。

事業内容は、既存の住宅敷地に事業者が設計、建設した後、市に所有権を移転し、その後20年間維持管理業務を行うBTO方式です。支払方法は、市への所有権移転時に、施設整備費の45%を支払い、残りの55%を20年間の割賦方式で支払うとの事です。

住宅は、5階建てで2棟(70戸)整備されており、一般住宅のほかに高齢者住宅もあり、生活相談・安否確認・緊急時の対応などを行うサポート業務も実施されていました。

角田市は、仙台市の南約40kmに位置する人口約3万人の農村地帯です。

同市は、市営バスを運行していましたが、年々利用者が減少し続け、新たな交通システムを検討し、利用者への聞き取り調査などを実施して利用者のニーズに対応したデマンド型乗合タクシー「ラビットくん」へ転換を図りました。

事業内容は、市が商工会へ委託し、予約業務は商工会がシステムを導入して行い運行は、タクシー会社に委託されています。市内中心部を走るコースと市内と他の地域を結ぶコース(4エリア)を1日8便設定し、当日30分前の予約で利用出来ます。

那須烏山市でも、南那須地区で実証実験運行されていますが、今後は全市運行に向けて早急な対応が求められています。

総務企画常任委員会委員会 委員長 平塚 英教



角田市デマンド交通予約センター前にて